

進化 ← 長崎!!

特集

市政

市民

ご意見
プレゼント

生活情報

子育て

健康

福祉

被爆者援護

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集



< 12 の構成資産 >



「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は、「伝来・繁栄期」「禁教・潜伏期」、そして、「解禁後の復活期」という、日本にキリスト教が伝来し受け入れられる3つの時代を示す遺産として、平成28年の世界遺産登録を目指してまいりました。

しかし、本年2月、ユネスコの諮問機関であるイコモスから、「禁教・潜伏期」に焦点をあてた内容に見直すべきとの指摘を受け、いったん、推薦を取り下げました。その後、構成資産の再検討や、「教会」から「集落」への資産の範囲の拡大といった推薦内容の見直しを行いました。その結果、7月に開かれた国の文化審議会で、本年度の推薦候補に再び選定されました。

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」再推薦決定 〜平成30年の世界遺産登録を目指して〜

【問い合わせ】世界遺産推進室 ☎ 829・1260

<平成30年登録までのスケジュール>

平成29年2月1日まで

ユネスコに推薦書の提出

平成29年9～10月

イコモスの現地調査

平成30年5月ごろ

イコモスによる勧告

平成30年7月

世界遺産委員会での審議

世界文化遺産へ登録

禁教期における独特の信仰形態を示す遺産

「長崎の教会群」は、1614年の禁教令により信仰が禁止され激しい弾圧が行われたにも関わらず、2世紀以上に渡って神道や仏教を装い信仰された、独特の形態を示す遺産です。潜伏するきっかけとなった島原・天草の一揆の舞台である「原城跡」、密かに信仰を続けた各地の「集落」、潜伏が終わるきっかけとなった「大浦天主堂」など2県6市2町に所在する12の構成資産で、「禁教・潜伏期」を物語っています。そのうち、長崎市には「大浦天主堂」「外海の出津集落」「大野集落」の3つがあります。



大浦天主堂

大浦天主堂は開国後に来日した外国人宣教師によって、1864年、居留地の外国人のために建設されました。16世紀に長崎の西坂で殉教した二十六聖人に捧げられた教会堂です。

完成直後の1865年、浦上村の潜伏キリシタンが神父に信仰を告白した「信徒発見」の舞台となり、その後、各地の潜伏キリシタンが相次いで訪れ、神父の指導の下、カトリックへ復帰する契機となりました。

外海の出津集落

外海の出津集落では、16世紀にキリスト教が伝わり、禁教・潜伏期にも、集落内の宗教的指導者のもとで聖画や教義書などを使い、密かに信仰を続けていました。現在でも禁教期の代官所跡、指導者の屋敷跡、墓地など、潜伏キリシタンの集落であった頃の様子が遺構として良好に残されています。集落内には、1882年に建設された出津教会堂があります。



大野集落

大野集落のある神浦地域こうのうらには、16世紀に宣教師の駐在所である「レジデンシア」が置かれ、キリスト教が伝わりました。大野集落では、禁教期に氏子となった神社をキリスト教信仰の対象にして、密かに信仰が続けられました。

集落内には、出津教会堂の巡回教会として1893年に建設された大野教会堂があります。



外海歴史民俗資料館展示リニューアル！

(西出津町 2800 ☎ 0959-25-1188)

7月、「長崎の教会群」と外海の集落の特徴である「石積集落景観」の展示を新たに追加し、リニューアルしました。



市トクながさき(長崎ケーブルメディア)で、「長崎の教会群」につ

いて紹介しました。市公式YouTubeで動画配信中です！

